

～遠野物語とは～

明治43年、柳田国男によって自費出版された、岩手県遠野地方の伝説や昔話などを聞き書きした説話集。昔話好きにはたまらない、座敷わらしや河童、天狗などおなじみの妖怪達に加え、幽霊や神様などの怪奇談も綴られている。京極夏彦や水木しげるなどによって度々リメイクされ続ける民俗学の金字塔、ここにあり！

～柳田国男と民俗学とは～

民俗学とは、民間伝承を素材として、民族文化を明らかにしようとする学問である。そして日本においてその学問を広め発展させたのが、当時詩人で官僚だった柳田国男。彼は明治維新後の西洋文化を取り入れる「近代化」というスローガンとは反対に、日本の文化を見つめ直そうという活動を始め、『遠野物語』や『桃太郎の誕生』などを執筆した。

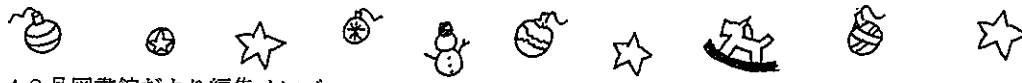
◆登場する昔話をちょこっと紹介◆ 幸せを運ぶ～オクナイサマ～

遠野の家にはオクナイサマというお地蔵さまのような神様が祀られていることがあります。昔々、男が田植えに苦勞していると、少年がどこからともなく現れ、仕事を手伝ってくれました。しばらくして仕事が済むと、少年はいつの間にかいなくなっていました。不思議なことがあるものだなあ、と家に帰ると、なんと、祀っているオクナイサマに泥がかぶっていました。そこで男は少年の正体に気づきオクナイサマに供物を捧げたのでした。

実は、遠野から遠い京都にも、お地蔵さまが僧侶になって横暴な農民を諭す伝説があります。そのように他の地方のものと読み比べてみると、共通点があったりするのも昔話の面白さなのかもしれません。

～参考文献、関連本～ ※《●》のついている本は本校図書館にあります！

- 『遠野物語 remix』訳：京極夏彦
- 『妖怪画談カラー版』著：水木しげる
- 『水木しげるの遠野物語』漫画化：水木しげる
- 『遠野物語へようこそ』著：三浦佑之・赤坂憲雄
- 『新版遠野物語』角川ソフィア文庫
- 『新釈遠野物語』著：井上ひさし



第148号図書館だより編集メンバー

72期 M.I (1・4面装飾)・W.T 73期 R.K (3面装飾) 74期 S.T  
75期 Y.A (2面装飾) 76期 T.O・Y.S

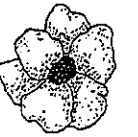


今年から中庭の様子が変わっておしゃれになりましたね。帰る前のひととき、ベンチに座ってほっとレモンを飲みながら、イルミネーションを満喫してみたいはいかがですか？

図書館だより編集長 72期 M.I



祝！構先生「宮沢賢治賞奨励賞」受賞記念インタビュー



9月22日、岩手県花巻市にて「第30回宮沢賢治賞・イーハトーブ賞」の贈呈式が行われ、構先生が「宮沢賢治賞奨励賞」を受賞されました。そこで受賞を記念して先生にお話を伺いました。インタビュー時の構先生の雰囲気を活かして文字起こしをしています。臨場感をお楽しみください。

Q：受賞を受けて、お気持ちは？

内定の連絡を受けた際は、びっくり。なんでかっていうと、自分の書いた内容が「正当な研究ではない」から。「賞くれるんだ！！」って驚いたよ。

Q：研究のきっかけは？

今回受賞した本で書いている研究のきっかけは大学4年生のとき。岩手県での発表の際に、地元の人が宮沢賢治のことを「賢治さん」と呼んでいることに驚いて。「どのようにして宮沢賢治が親しまれていったのか」を疑問に感じたんだよね。あとは、大学3年生のときに、ゼミで「宮沢賢治と心霊について研究しろ」と言われたことも本を書くきっかけになったかな。

Q：今後の研究について

宮沢賢治の受容に関しては、パート2が書けるようにしたいね。終戦直後になぜ、再び『雨ニモマケズ』が読まれるようになったのか・・・宮沢賢治生誕100年祭でなぜあんなに盛り上がったのか・・・死ぬまでに全部書ききれるか不安だよ。

貴重なお話をたくさん聞かせていただきましたが、紙面の都合でここに掲載しているのはほんの一部です。構先生の書かれた『宮沢賢治はなぜ教科書に掲載され続けるのか』は本校図書館にあります。ぜひ一度手にとってみてくださいね。

構先生、本当におめでとうございます！